

H23. 8. 31

所管横断 Bチーム

〈メンバー〉

- ・ 阿南 公彦 ・ 岩佐 浩司 ・ 宇野 光博
- ・ 大森 絵美 ・ 中村 啓太郎 ・ 橋詰 信吾
- ・ 福留 裕一 ・ 山本 一成

アドバイザー 藤本 広一

ひと創造つながり

～「創造びと」よ、はばたけ～



1. 概要

福岡のまちは、2000年以上の長い歴史の中で、アジアと近接する恵まれた地理的特性によりさまざまな文化交流を繰り返しながら、常に新しいものを受け入れ変化・発展し続けてきた。

C.R.ダーウィンは言う、「最も強い者が生き残るのではない、最も賢い者が生き残るでもない。唯一生き残るのは、変化する者である」と。福岡がこれまでも、そしてこれからも魅力ある都市として生き残るためには、変化し続けなければならない。そのためには、多様な価値観を受け入れながら感性を磨き、創造力を豊かにすることを志す「創造びと」が活躍することができるまちになるこ

とが重要である。

私たちは、創造力・感性が育ち、活かせる自由な場が必要と考え、25年後の福岡の目指す姿として「《ひと》感性・心が豊かに育つ」、「《創造》ひとがチャレンジし活躍する」、「《つながり》人とひと、人とまち」の3つの柱を掲げ、柱を達成する象徴的な場として大名小学校を「大名創造がっこう」という自由な創造の場とすることを提案する。

ひと 創造 つながり

2. いまとこれからへの思い

○「生活の質の高さ」に加え「創造的な人材」と「文化芸術面の質の高さ」でまちの魅力を発信し、福岡の活力を維持する!!!

○「創造びと」を呼び込み、更にまちの魅力を高める!

○住む場所、働く場所、活動する場として選ばれるよう魅力を倍増!

今の価値

生活の質の高さ

- 安くて美味しい食べ物
- 豊かな自然環境
- 買い物のしやすさ
- コンパクトシティ (歩いて楽しい)
- 交通の拠点
- 新しいものを受け入れる自由な気質
- 個性的な人材
- 人とのつながりやすさ
- 時間的な余裕
- スポーツ・音楽

生活の質の高さに新しい価値を加え、福岡の魅力を高めたい!!

新たな付加価値

まちの推進力となる「創造びと」と文化芸術

「創造びと」の育成

- 子どもの頃に体験する場が多い
- 感性を磨く場が多い
- まちに感性と心を育てる場がある
- 支援し、育てる仕組みがある
- 作品・活動を評価するシステムがある
- 人材が集まってくる
- 現状に甘んじることなく、危機感をもつ
- 変化を感じとる
- モノゴトを自分の問題としてとらえる
- 世界とつながる

文化芸術面の質の高さ

- デザインされたまち
- オリジナルな文化芸術 (地産地消)
- 九州の文化芸術の拠点となっている
- 文化・景観が継承されている
- 福岡をベースにグローバルに活動
- 個々の活動がつながり、広がっている
- 美術館・博物館が都市の「顔」となっている

「創造びと」育成と文化芸術面の質の向上は相互関係!
人材育成と文化芸術面の好循環を起こすことが必要!

活躍

刺激

3. ありたい姿と3つの柱

ありたい姿

- 自らの内に何かを創り出そうとする力を持つ者が育ったり集ったりするまち
- 自分自身の価値観を形成するために常に新しいものを受け入れ、既存の価値観と混ぜ合わせながら自分自身をデザインするひと
- 人とのつながりを大事にすることにより、社会やまちの課題を自分のこととして解決していくひと
- 人とのつながりによるセーフティネット (助け合いの精神) が構築されているまち
- 福岡オリジナルの創造的な人材が活動しているまち (文化の地産地消、自立した経済活動)
- まち・人とつながることで自分のやりたいことを見つけ実行していくひと
- 世界とつながる人材、アジア・世界の中で活躍する人材を生みだすまち
- 創造的なことが起きていくまち

柱

25年後のふくおか

《ひと》感性・心が豊かに育つ

《創造》ひとがチャレンジし活躍する

《つながり》人とひと、人とまち

4. 3つの柱の実現に向けて

施設のリノベーションの推進 ～まちなかに創造の場を～

今後、老朽化する建物の増加が見込まれる中、安易にビルを建替えるのではなく、古い建物をリノベーションすることにより、価値・愛着のある建築や景観を維持するとともに、創造の場等に転用し、「創造びと」の集積を図る。 ※リノベーションとは、建物の改修時に、用途や機能を変更して性能を向上させたり価値を高めたりすること。

〈方向性〉

- ・リノベーションを行う際に必要な人材（デザイナー、建築家、アーティストなど）のネットワーク化
《まちデザイン人材バンク》
- ・建物のオーナーがリノベーション施設を作る際に参考となる事例を紹介。（ノウハウの提供など）
- ・リノベーションを推進するエリアを指定することで、集積を図る。
- ・リノベーションした施設は、若手アーティストや若手クリエイターに低価格で提供。
- ・シェアオフィス、レジデンス施設、国内外に居住している人の活動拠点として活用。
- ・福岡で作品を製作するために滞在する人を対象とした短期間の住居（映画ロケ班等にも提供）
- ・商店街等の身近な場所で、市民に見える創造の場として提供。

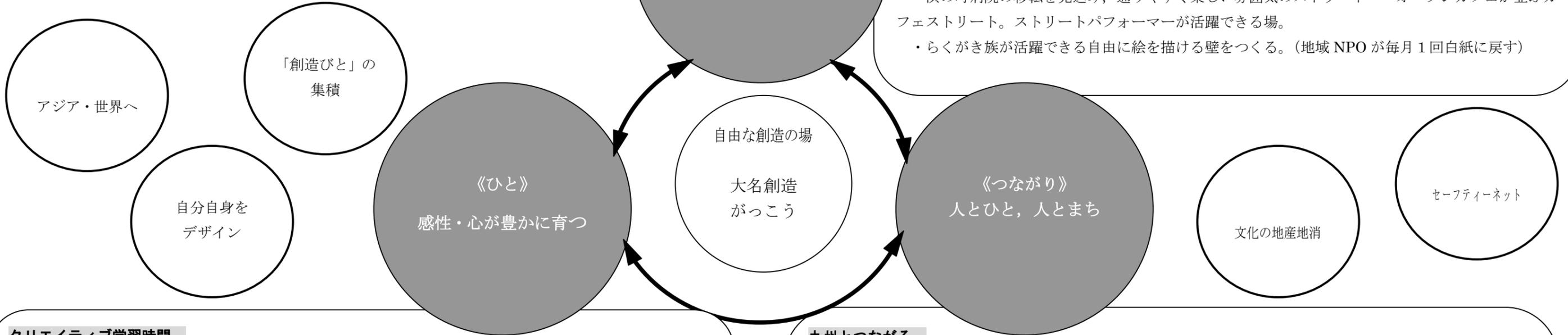


親富孝通りから海へ向かう道を、歩いて楽しい賑わいのストリートへ

「大名創造がっこう」から開かれてゆくプロジェクトとして、空ビルが多く、一時の賑わいが薄れた親富孝通りを、アーティスト・クリエイターと地域住民とのワークショップ等により海へ向かって開かれた、歩いて楽しい賑わいのストリートとする。

〈方向性〉

- ・浜の町病院の移転を見込み、通りやすく楽しい雰囲気ストリートへ・オープンカフェが並ぶカフェストリート。ストリートパフォーマーが活躍できる場。
- ・らくがき族が活躍できる自由に絵を描ける壁をつくる。（地域NPOが毎月1回白紙に戻す）



クリエイティブ学習時間

市内の小中学校において、文化やデザイン、科学技術等に触れ、体験学習するクリエイティブ学習時間を設け、全ての小中学生に感性・心を育てる時間を与えるとともに、将来の「創造びと」を育成する。

〈方向性〉

- ・各小中学校に1名ずつアーティスト・クリエイター等を配置
- ・演劇やダンスでコミュニケーション能力を高めるワークショップ
- ・福岡・日本の歴史、文化を学ぶ時間（例：ギンギラ太陽'sのワークショップを通じたまちの歴史の学習）
- ・全ての生徒が文化施設（例：美術館・アジア美術館・博物館、プロの音楽・演劇の鑑賞等）に行く時間
- ・さまざまな個性が認められる土壌づくり（たとえ勉強が出来なくても成功した大人からの授業）
- ・多言語教育（英語と韓国語、中国語など）、多文化に触れ理解する教育

九州とつながる

交通の拠点である福岡が、文化・経済面で九州各都市の拠点となり、「創造びと」が有機的につながりを持ち、より広いフィールドで活躍していくことを目指す。また各都市が文化・経済面でつながることにより、九州内の一体感を醸成していく。

〈方向性〉

- ・九州全体で、各都市持ち回りのアートフェスティバルを開催
（個性的な活動を行っている九州内の主な都市・地域：太宰府、北九州、田川、別府、波佐見、佐賀、桜島）
- ・スカイランタン（空飛ぶ灯明：ポーランド ポズナン 夏至のお祭り）を九州のみんなで作る
- ・九州・釜山等を中心とした若手アーティスト作品の展示即売会の開催

5. 自由な創造の場のモデル

大名創造がっこう(仮称) ～多様な価値観をもち、独創的な「創造びと」を育てる～

理念：歴史的・文化的に価値のある大名小校舎を残し、感性を磨く場、「創造びと」を生み出す場として活用。
この創造の場を拠点として、「創造びと」を中心にまちで創造的な動きを広げるまちの魅力を高めることを目指す。

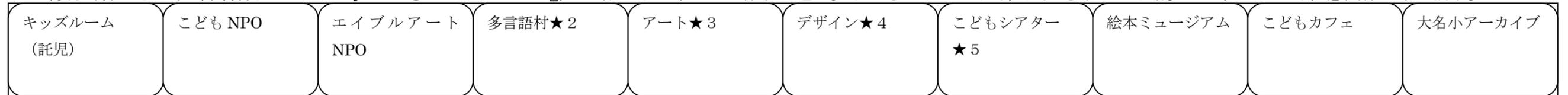
また大名小のリノベーションを通して、古い建物をリノベーションにより活かしていくムーブメントを起こす。
(参考 大名小学校 昭和4年現在の鉄筋校舎が完成 2014年度から舞鶴小・實子小と合併し新校舎へ移転予定)

3F (若者を中心とした大人の感性を磨く場) 様々なジャンルの学び・創造の場。

★6 屋上



2F (幼少期からの人材育成スペース『こどもミュージアム』) 様々なジャンルの体験・遊び。子どもだけではなく、大人も楽しめる場。また、NPOや任意団体が常に活動。

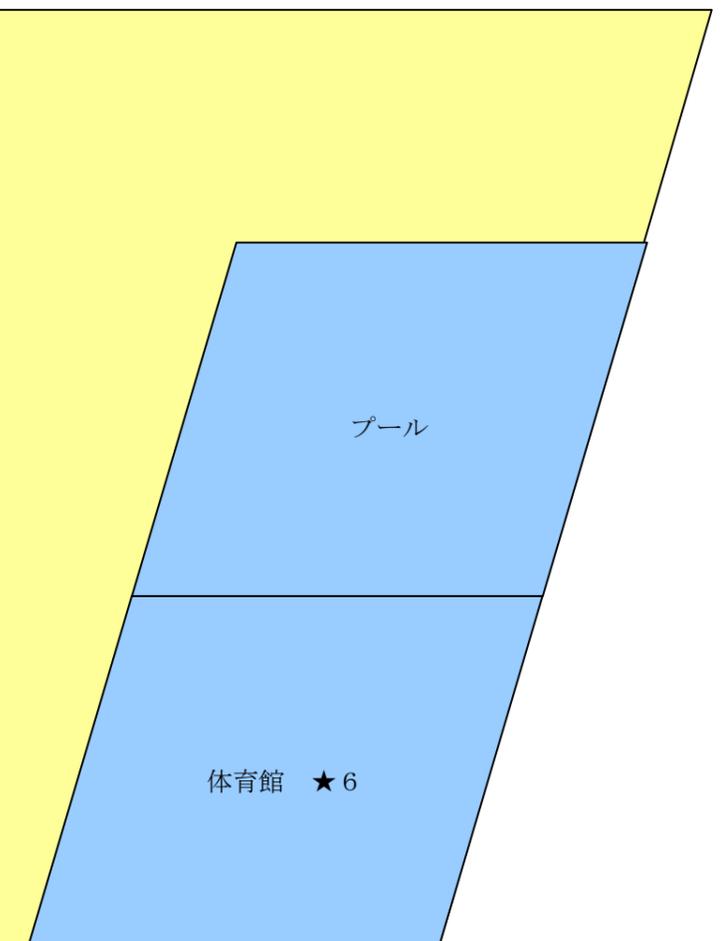
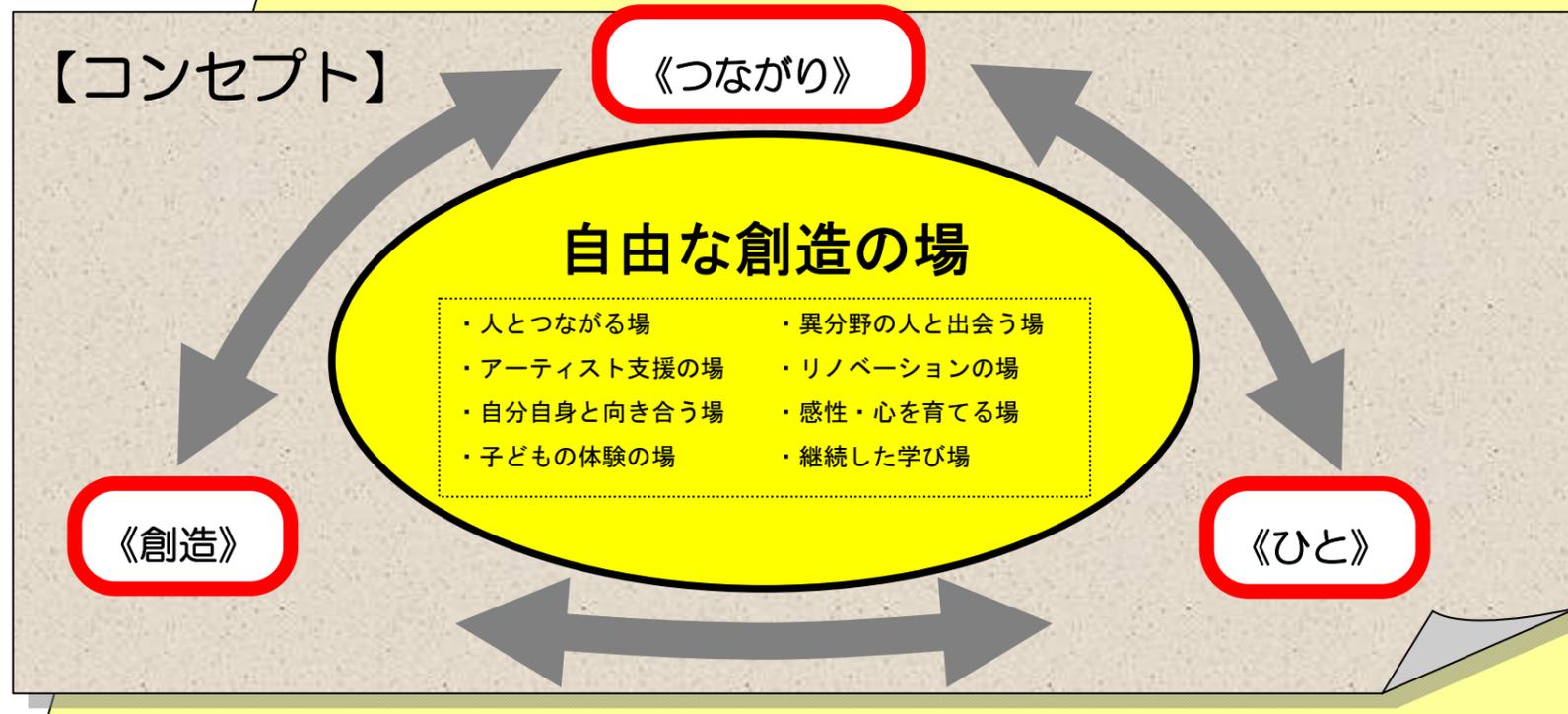


1F (気軽に立ち寄れるオープンスペース) 人と人が交流することができる場



校舎

校庭 ★6 【作品発表・創作の場, イベントスペース, 都心の憩いの場】



【大名創造がっこのメニュー例示】

★1【自由大学】

○概要

- ・誰もが気軽に学んで、人とひと、人とまちがつながる学びの場（常設のテンジン大学のイメージ）
- ・主に福岡で活躍している人材（デザイナー、まちづくりプランナー、コミュニケーション、ソーシャルビジネス等々）を講師とし、その時々ニーズに応じてテーマを決め、講座を実施。（より専門的に学びたい人）

○対象者

高校生以上



★4【デザイン】

○概要

デザイナーやデザインを学ぶ学生により、デザインの考え方を活かし、ものづくりなどのワークショップを行う。遊び・体験を通じながら、デザインやまちづくりを学んでいく。

○対象者

小学生以上



★2【多言語村】

○概要

- 日本語以外の言語でのみ会話をするスペース
- (例)月水金：韓国語
- 火木土：英語
- 日：その月毎にさまざまな言語を選択

○対象者

3歳から小学生まで



★5【こどもシアター】

○概要

子どもにとって（保護者も一緒に）魅力的な映像を提供することや、子どもたちが演劇をする際の練習部屋兼発表スペース

○対象者

こども(中学生まで)と保護者



★3【アート】

○概要

- ・子ども達の自由な感性を磨き、育てる！
- ・アートに触れる機会が少ない、乳幼児や乳幼児の保護者が始めてアートに触れる機会を提供。
- ・レジデンスや若手アーティストと共に創作ワークショップ
- ・ダンスワークショップ、演劇ワークショップ

○対象者 乳幼児から



★6【屋上・校庭・体育館】

○概要

- ・屋上は、全面緑化。菜園も作り、カフェへ食材提供。コンポスト化した生ゴミも肥料として活用。
- ・校庭、体育館は、作品発表の場・創作の場、イベントスペース等として活用。
- ・年に1回、九州・釜山等アジア各国を中心とした若手アーティストの作品展示即売会を実施。
- ・夏休み期間中は、子ども向けの遊具などを特設し、都心の遊び場として活用。（キャンプも実施）
- ・大規模災害時の子どもの心のケアにも活用（東日本大震災被災地の子ども達をアートで元気づけるプログラムなど）

施設の運営方法

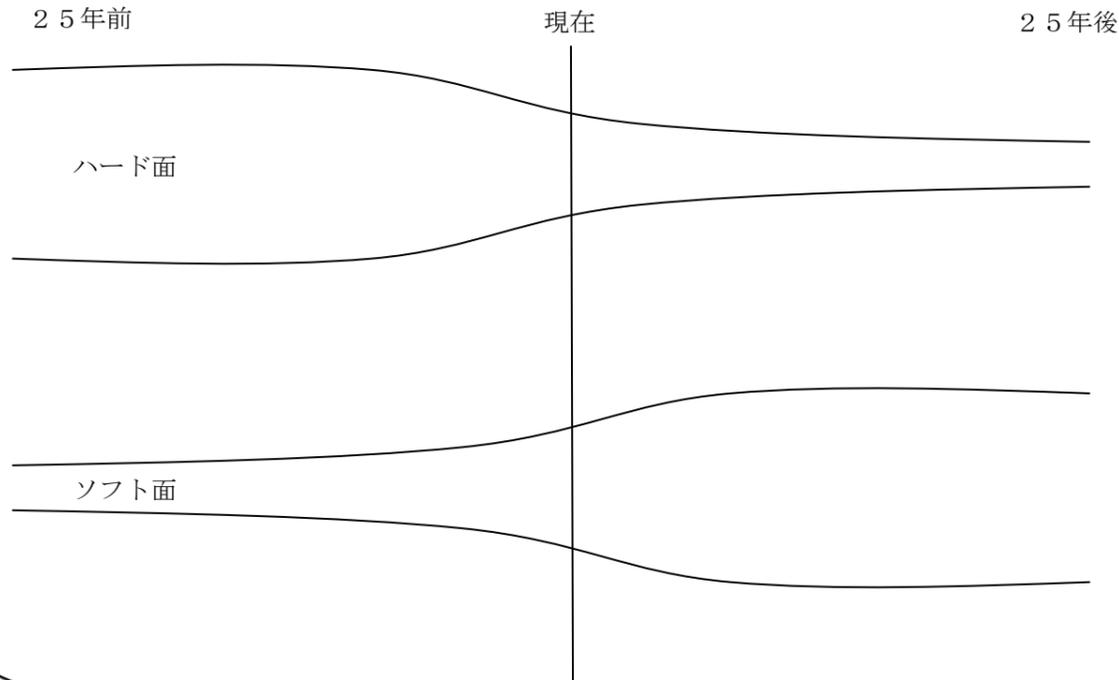
- 市が基本的な考え方を示し、企画コンペ等を実施。
- 施設全体をディレクションする人材を配置。
- 5年契約での業務委託契約

6. 市役所にも創造びとを

福岡市では、25年前と比べて現在では下水道・道路・交通などのインフラ整備がほぼ整ってきており、行政の役割はインフラ整備のハード面から、住民と共働しながらすすめていくソフト面の役割が多くなってきている。25年後に向け、行政にはますますソフト面に対応した職員・組織が求められる。

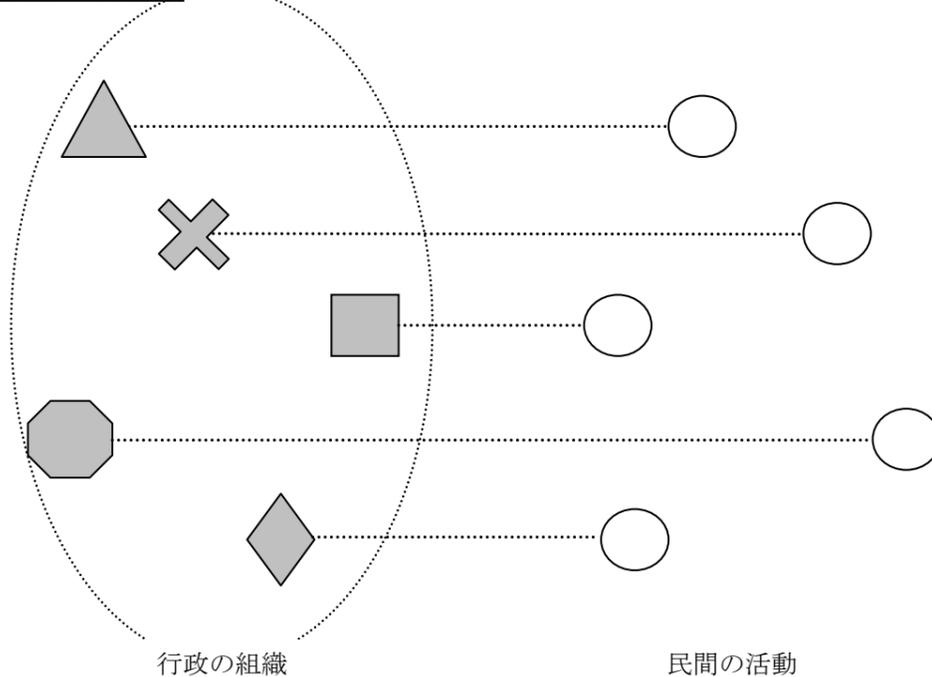
また、民間では様々な創造的・魅力的な活動が行われているため、民間の動きを総合的に把握し、点在している活動をつなぎ合わせて面的に広げ、発信力を高める等の役割を担う市長直轄の部門の設置が必要と考える。

◇ 行政の役割の変化への対応



- 25年前は、行政の役割はインフラ整備などハード面が中心
- 今後は、住民と共働しながらすすめていくソフト面の役割がより多くなる
- 地域・住民とのコミュニケーションを高める必要性（職員が一市民となる）
- 職員個人が自らネットワークをもち、創造的な発想で仕事をしていく
- いい意味で職員が公私混同し、新しい発想で仕事をする
- 住民の活動に合わせたスピード感ある決裁システム
- 様々な変化に柔軟に対応できる組織
- 今ある行政サービスを地域 NPO へ積極的に委託（ソーシャルビジネス等の促進）

○ 行政と民間の関係の再構築



- 民間では、様々な魅力的な活動が点在しており、面的に広がる可能性がある（Konya2023, 冷泉荘, 九州アートゲート, Fukuoka Art Walk, ブックオカ, けやき通り音楽祭, カフェウィーク, 箱崎アートターミナル, 井尻アートカフェなどなど...）
- まち全体のクリエイティブな動きを把握している行政の部署がない
- 点在している活動をつなぎ合わせて面的に広げ、発信力を高めるのが行政の役割
- 発信力を高めることで九州各都市ともつながり、さらに発信力を高める
- 総合的に把握する部署 権限をもった市長直轄の創造性事業本部が必要
- 民間と常に同レベルでコミュニケーションできる知識・人脈をもった職員の育成